

## 特集「プライバシーを保護するコンピュータセキュリティ技術」の編集にあたって

菊池 浩明<sup>†</sup>

7万5千, 12万, 30万, 66万, 451万。さて、何の数字であろうか？ 本特集号の企画の必要性を裏付けるかのように、この一年間の企業からの個人情報流出事件は著しかった。これらの数字は2004年になって発覚した流出事件での個人情報数で、順にサントリー、シティバンク、ジャパネットたかた、そして、Yahoo BBである。住所氏名などの基本情報に電話番号や契約内容などの情報が漏れたとされている。特集号の企画者の1人として「ほら、だからいったでしょう！」と企画の妥当性を確認したその一方で、次々と塗り替えられる流出件数の記録にやうんざりとしたものであった。

研究にはニーズとシーズがあるのはご存じのとおりで、これほどの事件が起きて社会的な必要性が認識されているのだからプライバシー保護技術に対するニーズは今や十分である。対するシーズ、すなわち、その問題に対する効果的な技術の芽はあるかといえ、これも安全性の評価が進む暗号アルゴリズムに加えて不正侵入や異常検知などのネットワークセキュリティ、電子透かしをはじめとする著作権保護と新しい技術にこと欠かない。ニーズとシーズは揃った。さあ、研究分野としての開花時期を迎えよう。

ところが、ここへ来て雲行きが怪しくなる。先の流失事件での犯行手口は、外部からの不正侵入ではなく、契約社員などの内部犯による正規のユーザによる裏切りによるものがほとんどであった。ひどいものになると、アクセス履歴（ログ）が数週間で処分されてしまっていて、犯人がいつことを成したのかさえ同定できないというお粗末なものさえあったという。いかに数学的に美しく高度な認証プロトコルを発明しても、高速で精度の良い不正侵入検出システムを開発していても、これではまるで役に立っていない。本特集号で発表されるような最先端の技術を誰にでも使える一般的な技術に成熟させ、末端にまで浸透するまで我々研究者は責任を持たなくてはなるまい。

さて、本特集号には、55件の投稿がなされた。コンピュータセキュリティ研究会で企画した過去三年間の推移を見ると、27件、58件、55件と順調な増加傾向にある。著者によって取り消された3件を除いて、22件を採択とした。採択率は約42% ( $22/52 = 42.3$ )である。予想採択率の70%には達しなかったが、その十分なレベルの論文が採録されたものとみている。内訳では、セキュリティプロトコルとネットワークセキュリティに関するものが5件づつで最も多く、安全性評価、アクセス制御、プライバシー保護と続いている。コンピュータシステムに広く関するセキュリティ技術の研究開

発に貢献することとしたコンピュータセキュリティ研究会の設立目標に合致した研究成果が集まっているものとする。暗号の基礎理論から実践的な侵入検出まで、幅広いテーマの論文が集まっているのは、特定分野に閉じることなくあらゆるものの安全性を対象とするセキュリティ研究の本質的な定めであろう。

コンピュータセキュリティ研究会では、これまでに「新たな脅威に立ち向かう(2003年)」、「電子社会に向けた(2002年)」、「21世紀の(2001年)」などの特集号を企画してきた。その年々の研究動向や不正アクセスなどの事件を考慮しながら特集テーマを決めてきている。特に、年に一回開催しているコンピュータセキュリティシンポジウム(CSS)との連携を考慮し、シンポジウムを経て得られたフィードバックを元にして、特集号への投稿を勧めている。2004年度は北海道大学で開催され、多くの有用な技術発表が行われることが期待されている。

最後に、本特集号を出版する上でご協力いただいた特集号編集委員、査読者、学会担当者の方々に感謝したい。タイトなスケジュールの中、匿名の査読者の方々に丁寧な公平な査読をしていただいた。特に、寺田真敏編集委員には、スケジュール管理をはじめとする編集委員会に関する多くの作業を完璧に処理していただいた。これらの方々の努力なしでは本特集号は出版できなかったと思われる。ここに深謝申し上げる。

「プライバシーを保護するコンピュータセキュリティ技術」特集号編集委員会

- 編集長  
菊池 浩明(東海大)
- 委員(50音順)  
稲葉 宏幸(京都工芸繊維大)、岩村 恵市(キャノン)、岡本 栄司(筑波大)、櫻井 幸一(九州大)、佐々木 良一(東京電機大)、新保 淳(東芝)、田中 清(信州大)、田中 俊昭(KDDI研究所)、寺田 真敏(日立)、中西 透(岡山大)、西垣 正勝(静岡大)、沼尾 雅之(日本アイ・ピー・エム)、朴 美娘(三菱電機)、松浦 幹太(東京大)、村山 優子(岩手県立大)、盛合 志帆(ソニー・コンピュータエンタテインメント)

<sup>†</sup> 東海大学